

文脈的コードスイッチング尺度の開発

発表者： 呉 長憶 指導教員： 山 祐嗣
大阪公立大学 文学研究科 人間行動学専攻 心理学コース

文脈的コードスイッチング：Wu et al.(Under submission)によれば、文脈的コードスイッチングとは、個人が特定の相手や状況に応じて能動的にコミュニケーションスタイルを調整し、伝達効率を高めようとする適応的戦略である。この行動は、自身に馴染みのある文化的（集団的）背景知識や非言語情報などの文脈の手がかりへの依存を意図的に減らし、代わりに明確で簡潔な表現や、相手に馴染みのある手がかりへの依拠を通じて、メッセージの明瞭性を確保し、効果的な伝達を図るものである。**本研究の目的**は文脈的コードスイッチングを測量する尺度を開発することである。

方法：（実験1）計20項目のスケール式の質問項目を使って日本人大学生（N=100）に対してウェブ調査を行った。得たデータに対して、項目分析と因子分析により新しい尺度を作成する。**（実験2）**調査会社を通じて、日本人大学生（N=47）と日本人社会人（N=147）に対してウェブ調査を行った。実験1で暫定的に作成された質問項目を課すと同時に、計8項目の自由記入式の質問項目を使って、実験参加者に特定の事象・事物について、異なる相手（その背景を知っている相手と知らない相手）に説明することを求めて文脈的コードスイッチングが行われるかどうかを3名の評価者が7件法で評価して得点化した。それによって、実験1で暫定的に作成された質問紙による文脈的コードスイッチング尺度得点が、実際に測定された文脈的コードスイッチングの程度と相関するか否かを検討することによって、尺度の妥当性が検証される。

質問紙の例

実験 1（7件法スケール）

因子(仮)	質問文章
順応性	状況に応じて、異なるコミュニケーションスタイルを使う。
	どんなコミュニケーションスタイルの人に対しても、うまく対応することができる。
信頼構築	他人に良い印象を与えるために、意図的に普段と違う話し方をする。
	他人と距離を縮めるために、その人の話し方に合わせることがよくある。
異文化環境	異なる文化背景を持つ人々とコミュニケーションをとることがよくある。
	あなたがよく付き合っている人の多くは自分の故郷の出身の人である。(反転項目)
受信者配慮	これから何かを話そうと思うとき、相手がどの程度背景を知っているか、あれこれ考える。
	誤解を避けるために、物事の背景や経緯を詳しく他人に説明することがよくある。

実験 2（自由記述式）

質問文章	普通に知っている	知らない人
花見の楽しさについて	日本の友人	日本に行ったことがない外国人
正月の過ごし方について	日本の友人	日本に初めて来た外国人
好きな和菓子について	日本の友人	日本に初めて来た外国人

質問文章	熟知の人	知らない人
高校学生時代で一番印象が残った先生について	同じ学校のクラスメート	同じ学校以外の友達
好きな音楽(曲)について	同じぐらいその音楽(曲)が好きな人	その音楽(曲)を聞いたことのない人
大学生生活の楽しいことについて	大学の友達	大学に通ったことのない友達

結果

（実験1）因子分析により2因子構造「順応性」「受信者配慮」（計9項目）の尺度が構成されている（CFI = .99、TLI = .98、RMSEA = .04、SRMR = .06）。尺度全体の $\alpha = .84$ であった。「順応性」の $\alpha = .84$ であった。「受信者配慮」の $\alpha = .74$ であった。

（実験2）大学生において、スケール式質問項目の $\alpha = .78$ であった。記述式項目について評価者間信頼性ICC (2,1) = .83 ($p < .001$)であった。両者間には有意な相関が見られなかった ($r = .28, p = \text{n.s.}$)。各下位尺度の影響を分析するために重回帰分析を行った。結果として、順応性と記述式の間に有意な負の関連性が見られた ($\beta = -.28, p = .08$)、受信者配慮と記述式の間に有意な正の関連性が見られた ($\beta = .59, p = .000$)。モデル全体は有意であった ($R^2 = .25, p = .002$)。社会人において、尺度全体の $\alpha = .90$ であった。記入式項目について評価者間信頼性ICC (2,1) = .68 ($p < .001$)であった。両者間には有意な相関が見られなかった ($r = -.03, p = \text{n.s.}$)。各下位尺度の影響を分析するために重回帰分析を行った。結果として、順応性と記述式の間に有意な負の関連性が見られた ($\beta = -.30, p = .02$)、受信者配慮と記述式の間に有意な正の関連性が見られた ($\beta = .27, p = .03$)。モデル全体は有意であった ($R^2 = .06, p = .045$)。尺度のすべての下位尺度について妥当性が検証された。